



## 平成26年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成25年11月8日

上場取引所 東

上場会社名 ソマール株式会社

コード番号 8152 URL <http://www.somar.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 曾谷 太

問合せ先責任者 (役職名) F&A部長

(氏名) 今井原 俊彦

TEL 03-3542-2152

四半期報告書提出予定日 平成25年11月12日

配当支払開始予定日

平成25年12月9日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成26年3月期第2四半期の連結業績(平成25年4月1日～平成25年9月30日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年3月期第2四半期	11,643	△4.4	△551	—	△525	—	△426	—
25年3月期第2四半期	12,178	1.3	△383	—	△405	—	△370	—

(注) 包括利益 26年3月期第2四半期 203百万円 (—%) 25年3月期第2四半期 △491百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年3月期第2四半期	△21.94	—
25年3月期第2四半期	△19.06	—

#### (2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年3月期第2四半期	25,075	—	13,175	—	—	52.5
25年3月期	24,788	—	13,069	—	—	52.7

(参考) 自己資本 26年3月期第2四半期 13,175百万円 25年3月期 13,069百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
25年3月期	—	5.00	—	5.00	10.00
26年3月期	—	5.00	—	—	—
26年3月期(予想)	—	—	—	5.00	10.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 平成26年3月期の連結業績予想(平成25年4月1日～平成26年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	24,330	6.1	△900	—	△900	—	△690	—	△35.49

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

26年3月期2Q	19,587,349 株	25年3月期	19,587,349 株
----------	--------------	--------	--------------

② 期末自己株式数

26年3月期2Q	145,996 株	25年3月期	141,434 株
----------	-----------	--------	-----------

③ 期中平均株式数(四半期累計)

26年3月期2Q	19,442,921 株	25年3月期2Q	19,447,817 株
----------	--------------	----------	--------------

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表に対するレビュー手続は終了しております。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P3「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 四半期連結財務諸表 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	6
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間 .....	6
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間 .....	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書 .....	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	9
(継続企業の前提に関する注記) .....	9
(追加情報) .....	9
(四半期連結損益計算書関係) .....	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	9
(セグメント情報等) .....	9
(重要な後発事象) .....	10

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、いわゆるアベノミクスで代表される政府の経済政策への期待感などから、株高基調や円高修正が進み、個人消費持ち直しへの動きや輸出企業を中心とした業績改善の動きが出てくるなど、景気回復へ向けた明るい兆しが見え始めました。しかし一方では、中国における経済成長の減速や円安による輸入品価格の上昇、消費税率引き上げの動向など、国内景気の下押し圧力もあって、景気の先行きには依然として不安が残る状況が続きました。

こうした状況下、当社グループは引き続きスピーディな経営判断を心がけ、国内の顧客はもとより、新興するアジア地域を主体としたグローバルな顧客に対する情報収集と積極的な販売活動を展開すると共に、グループ全体での生産の効率化や新規製品の開発にも努めてまいりましたが、前年同四半期に見られた当社製商品に対する旺盛なスマートフォン関連需要が当四半期では大きく反動減したため、売上は減少しました。

その結果、当第2四半期連結累計期間における業績は、売上高が116億4千3百万円（前年同四半期比4.4%減）となりました。利益面では、製造子会社ソマテック株式会社への積極的な初期投資による償却負担の影響で、営業損失が5億5千1百万円（前年同四半期は営業損失3億8千3百万円）、経常損失が5億2千5百万円（前年同四半期は経常損失4億5百万円）となり、四半期純損失が4億2千6百万円（前年同四半期は四半期純損失3億7千万円）となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

## [高機能材料事業]

高機能材料事業は、自動車部品業界が比較的堅調に推移したことで高機能樹脂製品や関連する開発製品の販売が増加しましたが、スマートフォンやタブレットPC向けの材料ではコーティング製品や電子材料の需要が前年同四半期の旺盛な需要から反動減したため販売が落ち込みました。その結果、当事業全体の売上高は80億2千9百万円（前年同四半期比7.6%減）となり、またソマテック株式会社への投資負担の影響で営業損失が4億8千6百万円（前年同四半期は営業損失3億3千6百万円）となりました。

## (主な製商品群の概況)

製商品群	概況（数値は前年同四半期との対比）
コーティング製品	スマートフォンやタブレットPC等の関連分野で前年同期に見られた旺盛な需要が、当期は反動減で大きく落ち込んだため、26.9%の減収となりました。
高機能樹脂製品	特に自動車部品業界向け需要が堅調に推移し、開発製品の投入や海外生産拠点からの顧客への製品供給体制も整備が進み、6.4%の増収となりました。
電子材料	回路形成材料は業容を拡大したことで販売増となりましたが、スマートフォンや重電向け当社材料への需要が低調に推移し、7.1%の減収となりました。
機能性樹脂	プリント基板や家電製品が海外生産へのシフトを強めて国内生産が落ち込んでいる影響で、関連樹脂の国内需要が低迷し、4.2%の減収となりました。

## [環境材料事業]

環境材料事業は、主要顧客の製紙業界で紙の国内生産が漸減傾向を続けているため、当社の製商品販売においても厳しい状況が続いております。そうした中で、当社グループでは国内の製紙各社が海外展開へと重心をシフトさせている状況に合わせ、新興する中国や東南アジアの市場にも目を向けた活動に鋭意取り組んでおります。当四半期においては、引き続き顧客へのサービス向上と当社製商品の拡販に努めると共に、とりわけ当社の特長あるファインケミカルズ製品の拡販や用途開拓に引き続き努めてまいりました。その結果、当事業全体の売上高は29億3千8百万円（前年同四半期比9.3%増）、営業利益は3百万円（前年同四半期は営業損失1千6百万円）となりました。

## (主な製商品群の概況)

製商品群	概況（数値は前年同四半期との対比）
ファインケミカルズ	製紙各社の需要が低迷している中で、当社独自の製紙ケミカルズ製品や製紙用殺菌剤の拡販と用途開拓が進んだことで、11.5%の増収となりました。
製紙用化学品	主体の紙塗工用バインダーが、コート紙業界で需要が堅調に推移したことに加え、新たな拡販の成果も加わったことで、8.7%の増収となりました。

## [その他の事業]

その他の事業の主体をなす食品材料は、全体的に食品業界向けの食品需要が依然として伸び悩む中、顧客ニーズに応えるサービスの提供と拡販に努め、更には、新たな商材の育成と需要開拓にも努めてまいりました。当四半期では、前年度前半に見られた天然増粘安定剤の供給タイトな状況が、その後徐々に解消して平常化してきたことから、増粘安定剤の販売価格が前年の高騰レベルから反動減して大きく値下がりの影響で、増粘安定剤の売上が前年同期比で大きく減少しました。また一方では、保存食品向けなどの食品材料は新たな商材の投入や拡販の成果もあって販売は順調に拡大してきました。その結果、当事業全体の売上高は6億7千5百万円（前年同四半期比15.2%減）、営業利益は8千2百万円（前年同四半期比30.0%減）となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

## (資産)

当第2四半期連結会計期間末における流動資産は142億8千2百万円となり、前連結会計年度末に比べ9千6百万円増加いたしました。これは主に現金及び預金が6億5千6百万円減少したものの、たな卸資産が4億1千万円、受取手形及び売掛金が3億2千6百万円それぞれ増加したことによるものであります。固定資産は107億9千2百万円となり、前連結会計年度末に比べ1億9千万円増加いたしました。これは主に機械装置及び運搬具が1億2千3百万円減少したものの、投資有価証券が1億9千1百万円増加したことによるものであります。

この結果、総資産は、250億7千5百万円となり、前連結会計年度末に比べ2億8千6百万円増加いたしました。

## (負債)

当第2四半期連結会計期間末における流動負債は89億5百万円となり、前連結会計年度末に比べ41億3千6百万円増加いたしました。これは主に1年内返済予定の長期借入金が40億円増加したことによるものであります。固定負債は29億9千4百万円となり、前連結会計年度末に比べ39億5千4百万円減少いたしました。これは主に長期借入金金が40億円減少したことによるものであります。

この結果、負債合計は、118億9千9百万円となり、前連結会計年度末に比べ1億8千1百万円増加いたしました。

## (純資産)

当第2四半期連結会計期間末における純資産合計は131億7千5百万円となり、前連結会計年度末に比べ1億5百万円増加いたしました。これは主に利益剰余金が5億2千3百万円（4億2千6百万円の四半期純損失の計上、9千7百万円の剰余金の配当による減少）減少したものの、為替換算調整勘定が5億8百万円、その他有価証券評価差額金が1億2千2百万円それぞれ増加したことによるものであります。

この結果、自己資本比率は52.5%（前連結会計年度末は52.7%）となりました。

## (キャッシュ・フローの状況)

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末と比較して、6億5千6百万円減少して、43億6千4百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

## (営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは、8億3百万円の資金減少（前年同四半期は1億5千7百万円の資金増加）となりました。その主な要因は、減価償却費を4億9千6百万円計上したこと、たな卸資産が3億7千9百万円増加したこと、売上債権が3億4千7百万円増加したこと、及び税金等調整前四半期純損失を3億2千5百万円計上したことによるものです。

## (投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは、1億3百万円の資金減少（前年同四半期は8億9千1百万円の資金減少）となりました。その主な要因は、無形固定資産の取得として8千9百万円支出したことによるものです。

## (財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは、9千8百万円の資金減少（前年同四半期は9千7百万円の資金減少）となりました。その主な要因は、配当金として9千7百万円を支出したことによるものです。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成25年11月1日に公表いたしました連結業績予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表  
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	5,021,105	4,364,583
受取手形及び売掛金	6,616,296	6,942,848
電子記録債権	164,625	220,203
たな卸資産	2,062,332	2,473,258
その他	321,863	283,273
貸倒引当金	△70	△1,860
流動資産合計	14,186,153	14,282,308
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	3,696,235	3,652,967
機械装置及び運搬具(純額)	1,873,859	1,749,954
土地	1,796,087	1,816,211
建設仮勘定	28,396	96,603
その他(純額)	113,607	113,993
有形固定資産合計	7,508,186	7,429,730
無形固定資産	213,574	279,823
投資その他の資産		
投資有価証券	1,476,697	1,668,195
その他	1,886,077	1,897,308
貸倒引当金	△482,425	△482,275
投資その他の資産合計	2,880,349	3,083,228
固定資産合計	10,602,111	10,792,782
資産合計	24,788,264	25,075,090
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	3,588,908	3,508,413
短期借入金	400,000	400,000
1年内返済予定の長期借入金	—	4,000,000
未払法人税等	54,190	28,819
賞与引当金	137,367	148,900
その他	588,919	819,326
流動負債合計	4,769,387	8,905,460
固定負債		
長期借入金	6,600,000	2,600,000
退職給付引当金	153,832	132,363
役員退職慰労引当金	51,897	—
資産除去債務	67,876	68,183
その他	75,719	193,835
固定負債合計	6,949,325	2,994,382
負債合計	11,718,712	11,899,843

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	5,115,224	5,115,224
資本剰余金	4,886,268	4,886,268
利益剰余金	3,041,601	2,517,849
自己株式	△46,122	△47,031
株主資本合計	12,996,971	12,472,311
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	122,270	245,198
繰延ヘッジ損益	4,052	2,981
為替換算調整勘定	△53,743	454,756
その他の包括利益累計額合計	72,580	702,936
純資産合計	13,069,552	13,175,247
負債純資産合計	24,788,264	25,075,090

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 (四半期連結損益計算書)  
 (第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
売上高	12,178,825	11,643,173
売上原価	10,842,662	10,633,303
売上総利益	1,336,162	1,009,870
販売費及び一般管理費	1,720,125	1,561,660
営業損失(△)	△383,962	△551,789
営業外収益		
受取利息	5,451	5,534
受取配当金	15,747	14,689
為替差益	—	34,372
その他	6,520	6,946
営業外収益合計	27,719	61,542
営業外費用		
支払利息	29,343	30,327
債権売却損	2,428	2,483
為替差損	12,502	—
その他	4,759	2,072
営業外費用合計	49,034	34,883
経常損失(△)	△405,277	△525,130
特別利益		
補助金等収入	—	※ 200,000
特別利益合計	—	200,000
特別損失		
固定資産除却損	150	—
投資有価証券評価損	65,336	—
特別損失合計	65,487	—
税金等調整前四半期純損失(△)	△470,764	△325,130
法人税、住民税及び事業税	12,544	15,672
法人税等調整額	△112,600	85,719
法人税等合計	△100,056	101,391
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△370,707	△426,522
四半期純損失(△)	△370,707	△426,522



(四半期連結包括利益計算書)  
(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△370,707	△426,522
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△176,596	122,927
繰延ヘッジ損益	△7,501	△1,071
為替換算調整勘定	63,270	508,500
その他の包括利益合計	△120,827	630,355
四半期包括利益	△491,535	203,833
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△491,535	203,833
少数株主に係る四半期包括利益	—	—

## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純損失(△)	△470,764	△325,130
減価償却費	565,996	496,138
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△1,820	1,640
賞与引当金の増減額(△は減少)	22,852	11,266
退職給付引当金の増減額(△は減少)	△38,343	△21,469
受取利息及び受取配当金	△21,199	△20,223
支払利息	29,343	30,327
固定資産除却損	150	—
投資有価証券評価損益(△は益)	65,336	—
補助金等収入	—	△200,000
売上債権の増減額(△は増加)	△391,534	△347,289
たな卸資産の増減額(△は増加)	△337,907	△379,336
仕入債務の増減額(△は減少)	566,832	△106,163
その他	169,411	△92,219
小計	158,354	△952,460
利息及び配当金の受取額	21,199	20,223
利息の支払額	△28,347	△31,747
法人税等の支払額	△9,566	△39,895
法人税等の還付額	15,687	603
補助金等の受取額	—	200,000
営業活動によるキャッシュ・フロー	157,328	△803,275
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△885,122	△11,923
有形固定資産の売却による収入	—	480
無形固定資産の取得による支出	△8,227	△89,847
投資有価証券の取得による支出	△928	△1,254
投資有価証券の売却による収入	—	0
その他	2,504	△1,120
投資活動によるキャッシュ・フロー	△891,773	△103,665
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
長期借入れによる収入	600,000	—
長期借入金の返済による支出	△600,000	—
自己株式の取得による支出	△167	△908
配当金の支払額	△97,590	△97,276
財務活動によるキャッシュ・フロー	△97,757	△98,185
現金及び現金同等物に係る換算差額	40,054	348,604
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△792,149	△656,521
現金及び現金同等物の期首残高	5,033,003	5,021,105
現金及び現金同等物の四半期末残高	4,240,854	4,364,583

## (4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(追加情報)

当第2四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)
(役員退職慰労引当金) 当社は、従来、役員退職慰労金の支出に備えるため、内規に基づく期末要支給額を計上しておりましたが、平成25年6月27日開催の定時株主総会において、役員退職慰労金制度を廃止し、同総会終結の時までの在任期間を対象として、当社所定の基準による相当額の範囲内で打切り支給することとし、その支給の時期については各役員退任時とすることが決議されました。これにより、役員退職慰労引当金を全額切崩し、打切り支給額の54,547千円を「流動負債」の「その他」及び「固定負債」の「その他」に含めて表示しております。

(四半期連結損益計算書関係)

※ 当社の連結子会社であるソマテック株式会社が、宮城県大和町に建設した工場に対する補助金等収入であり、内訳は次のとおりであります。

自治体	補助金等名称	金額
宮城県大和町	用地取得補助金	200,000千円

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

セグメント情報

I 前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			その他 (注)	合計
	高機能材料 事業	環境材料 事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	8,693,042	2,688,911	11,381,954	796,870	12,178,825
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	8,693,042	2,688,911	11,381,954	796,870	12,178,825
セグメント利益又は損失(△)	△336,928	△16,477	△353,405	118,315	△235,090

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、食品関連素材の輸入販売等を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の  
 主な内容（差異調整に関する事項）

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	△353,405
「その他」の区分の利益	118,315
全社費用（注）	△148,872
四半期連結損益計算書の営業損失（△）	△383,962

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費であります。

Ⅱ 当第2四半期連結累計期間（自平成25年4月1日 至平成25年9月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			その他 (注)	合計
	高機能材料 事業	環境材料 事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	8,029,032	2,938,397	10,967,429	675,743	11,643,173
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	8,029,032	2,938,397	10,967,429	675,743	11,643,173
セグメント利益又は損失（△）	△486,568	3,929	△482,638	82,786	△399,852

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、食品関連素材の輸入販売等を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の  
 主な内容（差異調整に関する事項）

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	△482,638
「その他」の区分の利益	82,786
全社費用（注）	△151,937
四半期連結損益計算書の営業損失（△）	△551,789

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費であります。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。